

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱 I		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目7番5号、6号		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100560-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱は1階棟の2階にサービス付高齢者住宅があり、グループホーム鶴ヶ岱2階は小規模多機能かつこの宿2階にと言うやや変則的な造りになっております。お花見行事やボランティア訪問の際は1.2階の利用者さま同士がが交流され賑やかに過ごされております。近隣には春採公園や鶴ヶ岱公園があり暖かい季節にはドライブや散歩に向いております。好天の日にはほぼ毎日散歩に出掛けており複数で出掛けるとおひとりが相手の歩幅に合わせるなどし微笑ましく談話をしながら歩かれています。元気の源はおしゃべりにあるようで、皆さん大変お話が好きです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前には、自然豊かな春採湖、春採公園があり平成28年10月一部増改築を行った平成16年5月開設の2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)です。四季折々に節分やクリスマス会、ひな祭り等の行事の開催で楽しみごとへの支援や野外昼食会で食事が楽しみなものになるような工夫、地域ボランティア(沖縄民謡、津軽三味線、紙芝居、日本舞踊、特に毎月読み聞かせボランティア)の協力で交流の機会や地域の人々との連携に取り組んでいる。また、一人ひとりのその日の希望に沿って、春採湖周辺散策や外気浴、別保公園での花見や紅葉狩り、春採湖水祭り見物や神社への初詣、釧路川沿岸に停泊中につぼん丸見物など、普段では出かけられないような場所でも戸外に出かけられるよう支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域と共に支え合う充実した環境作りを事業所の理念として職員会議等を通して共有し実践に向け取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、日常業務や職員会議等を通じて職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域との関わりを大切にしながら活動や行事に参加し、事業所の活動や行事に参加、協力して頂くなど日常的に交流を行っている。	地域ボランティア(沖縄民謡、津軽三味線、紙芝居、日本舞踊、特に毎月読み聞かせボランティア)の協力で交流の機会を設けたり、地域の行事参加等を通じて交流・連携に取り組んでいる。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の場を提供し研修や会議等を通して認知症の方の理解や支援の方法を発信している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目安に運営推進会議を開催し、町内会、ご家族、地域包括支援センター職員等に参加していただき、事業所の活動報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的に開催して、事業所の活動報告や地域との協力体制等の具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者・地域包括支援センター職員とは日常業務や運営推進会議を通して情報交換を行い協力関係を築いている。	市担当者とは、日常業務を通じて情報交換を行い、指導や助言等を得ながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は内部研修や外部研修を通して理解や認識の共有を行っている。やむを得ない場合は、身体拘束廃止(適正化)委員会を臨時で開催し、3つの要件をすべて満たす・ご家族の同意等の必要な手続きを行っている。身体拘束廃止(適正化)委員会は定期的に開催しケアの見直しをしている。	身体拘束廃止(適正化)委員会が中心となって内部研修会を開催して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は研修や会議等で高齢者虐待防止法について学ぶと共に情報の共有を行い見逃されないよう常に意識している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は成年後見制度の理解不足の為、研修等に積極的に参加し知識を高め、個々の必要性に応じて活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定の際は、利用者やご家族の不安等に対し説明を行うと共に、文章にも残し双方が理解・納得できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の意見や苦情に関し、意見箱を設置している。ご家族の来所時は意見交換を行い運営に反映させている。	家族や来訪者等が外部者へ意見や苦情等を言い表せるよう意見箱を設置し、そこでの意見や苦情等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談等で意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	個人面談の実施や職員会議、日常業務を通じて意見や要望、提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなどが向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準や労働時間、やりがい等各自が向上心を持って働ける職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの実情、力量を把握し資格取得のサポートをし、内外研修の確保をおこない職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域ケア会議の参加や同業者との研修を通して、他事業所と交流を図り、他事業所の活動状況を知る事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供の段階で本人が困っている事、不安な事に耳を傾け職員で情報共有をし本人が安心して生活ができる関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供の段階で家族が困っている事、不安な事に耳を傾け職員で情報共有をし、家族に安心して頂きより良い関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援を見極め、他サービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きなど家事全般を利用者と共におこない、暮らしを共にする者として良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度通信を発行したり、来所時に日々の出来事を伝えたりし本人と家族の絆を大切にしながら共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を理解し、関係が途切れないよう支援に努めている。	センター方式の活用で一人ひとりの生活歴を把握して、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めている。また、心身の状態による意見の相違やトラブルがある場合は職員が見守り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後も相談があった場合はこれまでの関係性を大切にしながら支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりの思いや要望、意向の把握に努め支援している。	センター方式の活用で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時より生活歴や生活環境、サービス利用の状況などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの日々の過ごし方、心身状態、有する力等を生活記録に残し、職員ノート・利用者ノートを活用し職員間で情報を共有し支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアを本人・家族必要な関係者と話し合い意見やアイデアを反映し、状況に即した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員からの意見や提案を反映し、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施・結果・気づきや工夫を記録に残し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のサービスの他にその時々々のニーズに対し、柔軟な支援やサービスができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し本人が心身に力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と関係性を築き連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。	医師の往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療が受けられるようにしている。また、本人や家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護師に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、安心して治療ができるように、また、できるだけ早期に退院できるよう病院関係者や家族との情報交換や相談に努めている。又、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人や家族と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、家族や医療関係者との連携を図りチームで支援に取り組んでいる。	ターミナルケアを実践している。また、重度化や終末期の在り方について本人や家族の意向を踏まえ、事業所ができることを十分に説明して指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えて全ての職員は応急対応や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の対応は昼夜問わず利用者が避難できる方法を身に付けており、地域との協力体制も築けているが、地震や水害時の避難体制は足りていない。	消防署の協力の下、地域の人々が参加して通報から避難誘導まで行う総合訓練を実施している。また、地域の防災訓練にも参加している。	北海道胆振東部地震によるブラックアウト(北海道全域停電)を踏まえて、自然災害による影響を再度見直すことを検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。	内部研修会開催や日常業務等を通じて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるよう一人ひとりに対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの生活のペースを大切にしながら希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように一人ひとりの好みや量、配膳方法に気を付け、個々の力を活かしながら利用者、職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と一緒に準備や食事、後片付けをしている。また、時には野外昼食会などで食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるように支援し記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で確認し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫や運動を行い、医療機関との連携等個々に応じた支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴を楽しめるよう利用者の要望やタイミングに合わせた支援をしているが、その日の状況による時間変更もあり要望に応えられない時もある。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の目的や副作用、用法や用量についてかならず説明書を確認し個々に合わせた服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩やドライブを支援している。又、普段行けないような場所は行事企画として利用者、家族と一緒に出かけ楽しんで頂けるよう支援している。	一人ひとりのその日の希望に沿って、春採湖周辺散歩や外気浴、別保公園での花見や紅葉狩り、春採湖水祭り見物や神社への初詣、釧路川沿岸に停泊中のにっぽん丸見物など、普段では出かけられないような場所でも戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持、管理は心豊かな生活、生きがいのある生活になる事を職員は理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は季節ごとの飾りや行事の写真、利用者の作品を展示し、適度な温度、湿度が保たれるように配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間では季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示等で本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、家族の写真を飾り本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居室には、安全に配慮しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの心身の状況に合わせ共有スペースの手すりや導線の見直しをおこない、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴ヶ岱 I

作成日: 平成 31年 3月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外の災害の対応について再検討する余地がある。	職員全員に避難経路や避難方法等それに伴い、前もって準備すべきことの周知徹底	①毎月の会議を利用して勉強会を開催する。 ②ホームの現状を把握し避難先、避難経路等を把握する。 ③非常食などの備蓄品、利用者の身の回りの物(薬や衣類、パット)の準備、確認する。	6ヶ月
2	8	権利擁護と成年後見制度の理解をさらに深めていく。	職員全員が権利擁護と成年後見制度について理解する。	①定期的に勉強会を実施する。 ②研修会や外部の勉強会に参加し理解を深める。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100244		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム鶴ヶ岱 2階		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3-7-5		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100560-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成31年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鶴ヶ岱は平成28年に増改築により、2ユニット18名、1階・2階が別棟のグループホームです。2階は開設し丸2年が過ぎました。利用者様は活発な方が多く、自力で出来る方が多いです。近隣には春採湖公園、鶴ヶ岱公園があり、天気の良い日や暖かい時期には散歩やドライブに出かけています。又、近くにショッピングセンターもあり、職員の同行・見守りで利用者様が買い物を楽しめるよう外出の支援をしています。春には1.2階合同で家族も交えての花見会やかつこの宿との合同の屋外食事会には家族、町内会、地域の方々にも声を掛け、一緒に楽しんでいきます。行事・レク等での交流の他、町内会、地域の方々とも年間を通しお互いの行事(食事会、新年会、クリスマス会、カラオケ会等)には声を掛け合い参加し、交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域と共に支え合う充実した生活環境作り」をホームの理念とし、新職員入社時には、オリエンテーション等で理念について説明をし、管理者、職員全員で意識し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事、レクでの地域の方々とのふれあいや関わりがあり、地域の方が利用者様を訪ねて来たり、近隣のカラオケ会への誘いや食事会等、外出の機会も多い。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所開催の研修、会議等に参加して頂き地域の方々には認知症の人の理解や支援方法等を説明し協力をお願いしている。		
4		3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から、連絡を取り合い、相談に乗って頂いたり、事業者の実情やケアサービスの対応取り組み等を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止策としてベット下にセンサー使用する場合は、利用者様家族に相談し状況説明した上で同意書を頂き、その都度職員会議、身体拘束委員会で拘束を無くす努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は、研修等で高齢者虐待への理解を深め、虐待の防止・廃止に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、学ぶ機会はまだ十分とは言えず、必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議等で契約・解約・改定等について利用者、ご家族様に十分説明を行い、理解して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族様に意見・要望を聞くことその他、アンケートを行い、要望や苦情を運営、支援に活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を会議や毎日の業務で聞く機会を設け、職員の意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力・能力・実績を把握し、研修等職員が向上心を持って働けるよう環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は、職員一人ひとりのケア・力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を実施し、職員の知識・技能の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者との交流はあまり多くはないと感じており、今後1階のかっこうの宿、鶴ヶ岱1階との相互訪問等の活動を増やしサービスの質の向上に努めていきたい。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様がどのような生活をしていきたいか、困っていること、不安なこと等の要望を確認し、安心して生活できるよう声かけ・談笑をし関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時には利用者様・ご家族の要望等に耳を傾け、ご家族様が安心できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のアセスメントをしっかりと行い、どのような支援が必要が見極めるよう努めている。利用者様・ご家族様の意向、出来ることを理解し、今後どのようなサービスが必要なのか検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができることを把握し、掃除・洗濯・食器拭き等家事を職員と共にし、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様との関係を大切にし、どのように本人を支援していけばよいか要望に耳を傾け、情報の共有をして共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が、ご家族様・友人等との交流や町内会の方々との関係が継続できるよう努めている。外出の際も、できるだけ要望に沿えられるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や性格を把握し、家事の他レク等関わり合いを多くし支援をしている。集団での生活があまり得意ではない利用者様には、マンツーマンで会話をする等対応し孤立しないよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所のサービス利用が終了しても、これまでの関係性を大切に、本人・ご家族様の経過をフォローし、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がどんな生活をしたいか、どのようなことをしていきたいかを理解し、できるだけ本人の意向に沿えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴、暮らし方を把握し、これからどのような暮らしをしていきたいか、生活環境を整備する等支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりのできることや、過ごし方、心身の状態を把握し、職員間での連絡・情報の共有をして把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、センター方式の活用その他、その都度職員同士、ご家族様と話し合い、意見を反映した介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、体調等を生活記録に記入している。会議等でその都度情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や、家族の状況を把握し、その都度ニーズについて職員同士で考えている。柔軟な支援ができるよう、職員間で情報を共有し、サービスの多機能化できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方々との交流や、ご家族様、利用者様の友人等との外出等、本人が望む暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の受診時、往診時等、主治医・かかりつけ医との情報共有し、よい関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との情報共有、相談をし、利用者様の受診や看護を適切に受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、速やかに医療機関と情報交換、共有を行い、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合、利用者様・ご家族様と話し合い、情報・方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援できるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、利用者様が急変・事故発生時に備えて、研修や訓練を定期的に行い、備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震他災害時に利用者様が昼夜問わず避難が出来るよう訓練を重ね、全職員避難訓練に参加し、避難方法を身につけ、地域との協力体制を築いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉づかい等、人格を尊重し傷つけないように会議等で話し合っている。心理的虐待にならないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で、会話で要望や不満を聞き、利用者様の意向を尊重するように努めている。自己決定できるよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にし、できる限り本人の都合や希望を優先するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、整容等身だしなみができるように声かけ、髭剃り・爪切り等一部介助で支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人ひとりの好みを理解し、なるべく嫌いな物は提供しないようにしている。また、利用者様の体調が良いときは食事の準備・後片付けを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は食事量、栄養バランスを考慮し、調理を行っている。水分は一度に摂取できない場合は数回に分け、声かけし飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後・就寝前は口腔ケアの声かけ、誘導を行っている。介助が必要な利用者様には、一つ一つの動作を声かけし支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態により、衣類の上げ下げ・保清支援の他、排泄のパターンを考え定期的にトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維のある食べ物を摂取するよう声かけ、支援している。廊下の歩行等腸を動かすような軽い運動をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	利用者様の都合・要望・時間帯をできる限り優先している。男性職員の入浴介助を拒否する利用者様には、女性職員が対応する等対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活環境、体調等を把握し居室の温度・湿度を調整し、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が服用している薬の用法・用量について理解するように努めている。利用者様の普段の様子や服薬状況を確認し、体調を見極め、薬の量を変えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に食器拭き・片付けを手伝われたり、おしぼり・洗濯物をたたんで頂いたりと利用者様一人ひとりの役割があり、力を活かした支援を行っている。また、レク等利用者様一人ひとりが楽しみを持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物希望する利用者様には、職員が付き添い外出支援をしている。また、外食・町内会の方々とのカラオケ等、送迎を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望や判断能力を考え、お金を所持したり、職員の付き添いで買い物で使えるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望がある場合は、電話の使用を支援しご家族様・友人とのやりとりをされている。携帯を所持されている利用者様もあり、連絡は自由に行われている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節・行事の飾り付け、写真を貼る等、居心地のよい空間にするよう心掛けている。また、温度・湿度の管理には十分注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員は、利用者様が居心地よく過ごせるよう話をしたり、レク等を行っている。また、利用者様同士が口論や言い争いが起きそうな時は、職員が仲裁に入り落ち着かせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた物や好みの物を置き、利用者様が生活しやすくなるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ができることを把握し、家事を職員と一緒にしたり、利用者様一人ひとりが役割を持ち、できることを活かした支援を心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴ヶ岱 2階

作成日：平成 31年 3月 8日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	13	利用者様に対する言葉遣いに気をつけるよう周知していく。	利用様が穏やかに過ごせるように、大きな声や、きつい言葉、命令口調等、心理的虐待、拘束にならない声かけをする。	利用者様の行動一つ一つに丁寧な言葉遣いをする。大きな声や、「～しなさい」と命令口調の声かけはしない。利用者様の気持ちも考え、様子観察を行い、必要な時は一部介助を行い支援する。	3ヶ月
2	44	利用者様の排便コントロールについて職員間で共有していく。(下剤・乳製品等使用)	排便状況、下剤服用状況を確認。下剤の量を調整する。	排便状況、下剤服用状況を職員同士で引き継ぎ、共有する。松原様(－1日目 ラキソ20滴、－2日目 ラキソ25滴、－3日目 浣腸を施行。)、吉村様(－1日目 ラキソ10滴、－2日目 ラキソ15滴)等、現状に合わせ調整支援する。	3ヶ月
3	55	居室、リビングの整理整頓に再確認していく。	居室は各担当者、リビングは掃除機・モップがけ時にその都度汚れを確認。	居室内にある汚れの掃除。居室内にある使っていない物は、利用者様に確認、整理する。リビングはほこりがたまっている場所をその都度確認、掃除をする。	3ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。